吹奏楽部の地域移行の現状と
地域の大人を巻き込んだ取り組み

文化部活動の
地域移行支援ネットワーク

CASTOR ★ CULTURAL CLUB ACTIVITIES SHIFT TO THE REGION

法人概要

- 「部活動の地域移行を大人にとっても子どもにとっても良いものにしたい！」との思いから、埼玉・千葉・東京を中心に部活動指導員、楽器講師、市民楽団指揮者を務める音楽家有志により2022年9月に設立

- 現場での豊富な指導経験と音楽の専門家ならではの視点を活かして主に吹奏楽部の課題に取り組む

事業内容

1. 全国各地の先行事例の紹介、インタビューなどの情報発信

2. 文化部の地域移行に関わる人たちが意見交換できるオンラインイベントの開催

3. 小学生から参加できる市民楽団「さくら音楽団」の運営

4. 指導者または支援者となり得る社会人に向けた講座の開催

吹奏楽部の地域移行の現状

- 地域クラブ所有の楽器がある、楽器の扱いを一から教えてもらえる地域クラブは全国的に少ない。部活動で使っている学校の楽器を持参しての近隣学校または市民楽団との合同練習など、現状は各学校の部活動と並行することで成り立っている形がほとんどである

- 音楽大学や自衛隊音楽隊、楽器店などが協力しジュニアバンド（子どものみの吹奏楽団）を新設するケースは条件が限られる

おおまかな分類

1. 近隣学校との合同バンド
   （学校での活動、教員による指導）

2. 部活動指導員、外部指導者による指導
   （学校での活動、地域の人材による指導）

3. 市民楽団などへの合流
   （学外での活動、地域の人材による指導）

4. ジュニアバンドの新設
   （学外での活動、地域の人材による指導）

学外で活動する場合の課題と解決

・楽器の確保と保管
地域の方からの貸与や寄付、学校の統廃合で使わなくなった楽器を融通して確保
大型楽器はレンタル倉庫や施設の空きスペースを活用

・練習場所
音が出せる広い場所の確保は困難な場合が多い
自治体の事業として定期的に会場を確保する場合もある

・指導者の確保
１人の専門家が毎回の練習に出席し全てを指導するイメージでの人材確保は予算的にも難しい
幅広く地域の人材に関わってもらえるような工夫
楽器経験者の社会人が子どもたちと共に音楽を作り楽しむ発想

・活動資金
寄付の募集や大学・企業との提携などに取り組む例

吹奏楽部の地域移行に向けた提言

- 学校部活動のように子どものみを対象とした地域クラブ実現はハードルが高い。プロ・アマチュア問わず地域の大人も一緒に演奏する多世代型のクラブであれば実現しやすいのではないか（子どもも入れる市民楽団のような形）

- 子どものみ対象の場合もブランクの有無や経験を問わず地域の大人に関わってもらえる工夫。ひとりの指導者（専門家）に限らず支援者（経験者）の活用を検討

- プロ・アマチュアを越えた地域の音楽家の連携と協力態勢、各地域の文化協会や楽器店などとの協力、連携

- 地域の人材や生徒数、練習場所の条件や規模を踏まえ、吹奏楽に比べ楽器の種類が少なく少人数で出来る金管バンドやビッグバンド等も選択肢に

NPOカストルの取り組み①さくら音楽団

・2023年10月より社会人3名でスタート

・小学4年生～社会人参加可、さいたま市桜区にて休日に月１回2時間の練習

・現在は小学生2名、中学生１名、大学生3名、社会人7名、計13名が所属

・さいたま市内のみならず近隣の市町村からも参加

・管楽器は持参、１回に付き参加費500円

・現在はNPOメンバーが会場予約や団員募集などの運営、
　合奏指導を担当

・現在学校や自治体との関わりは特に無し

さくら音楽団　参加者の声

・小学生の娘と一緒に参加出来る市民楽団がないかと探していました。係活動な　どがないこと、練習が月に一回しかないこと、月謝ではなく参加費での徴収だ　というところが他の市民楽団と比べて負担にならないです。娘は学校の吹奏楽　部の練習は厳しいそうですが、こちらの練習は肩の力を抜いて参加出来ている　ようです。

・中学生が参加出来る市民楽団を探していました。学校の外で活動出来る場所が　あって良かったです。

・月に1回の練習なので、気軽に参加出来るのが良いなと感じます。また、他の　楽団では大人のみなので堅い時がありますが、小学生の子もいるので楽しく吹　けるのが魅力だと思います。

成果と課題

1. **演奏から離れていた大人の発掘**　小学生も参加するため難易度の低い曲目を月1回合奏する形式にした結果、子どもよりも社会人が多く集まる。
2. **スタートアップ時の難しさ**　発足から4か月後の第1回演奏会の時点では団員４名、足りないパートにカストルの運営メンバー２名が入り演奏した。子どものレベルに合わせた活動には専門家のサポートが必要。
3. **楽器の調達**　小中学生が持参したり、団員が所有する使っていない楽器を貸し出している状況。現在の練習場所はドラムセットのレンタルが可能だが、外部での本番時など大型楽器の調達が難しい。
4. **指導者謝金**　参加費により会場費などの経費は賄えているが、現時点で指導者謝金は捻出できていない。

NPOカストルの取り組み②指導者・支援者向け講座

- 市民楽団などで趣味として音楽に関わっている社会人、あるいは指導者を目指す学生を対象として部活動指導者確保のためのコーチング講座を開催。
- 昨年度はさいたま市で1回開催、今年度は埼玉県NPO基金の助成を受けさいたま市、川越市、熊谷市、春日部市、秩父市にて2回ずつ（平日夜・土日昼）計10回開催。
- 子どもたちと関わることへの不安や負担を軽減、部活動指導に関わる人材を発掘する目的
- 吹奏楽部の現場を把握している有資格者が講師を務め、参加者同士による実践練習も行い、現場ですぐに活用できるプログラムを作成
- 各回部活動指導員がスタッフを務め、終了後には参加者からの相談や各地域の指導者人材バンクの紹介などが出来る自由時間を設けた。

参加者の声

・近隣の中学校へ時々楽器を教えに行くことになり困っていました。私は専門家ではないで　すが、楽器の先輩として上手く中学生と関わっていきたいです
（30代　市民楽団で楽器を演奏）

・叱り方も勉強になりました。生徒を叱るのが上手くいかず落ち込んだことがあったのです　が、先生は「感情は乗せずに『迷惑をかける、困るなどの』事実だけを伝えるということ　を教えてくださり、なるほどなぁと感じました（30代　塾講師・趣味で楽器を演奏）

・今までのやり方では現代の子どもに通用しないと感じ、アップデートのつもりで来ました。いくつも新しい視点を得ることができたので、少しずつ現場で活用していこうと思います。（60代　元教員・吹奏楽指導者）

・子どもを前にして今まで体験してきた不安がだんだんと「今日学んだことで何とかできるかも！」と思え、軽くなっていったように感じました。(20代　児童教育学科大学生）

成果と課題

1. **コーチングの有効性**　ある程度の専門知識も必要だが、コーチングスキルの獲得が子どもと関わる際の不安・負担軽減に繋がることを参加者の様子から確認できた。

2. **部活動の地域移行の認知に課題**　これまで部活指導に深く関わっていない社会人を対象としたため市民楽団や文化協会をはじめ公民館やコミュニティセンターなどを通し案内チラシを配布したが、予想を大きく下回る集客となった。今年度は楽器講師や教職員などすでに教える仕事に携わっている参加者が多かった。
   →**部活動の地域移行が学校と行政の問題だと思われている**　＝自分達には関係が無いと思われているのではないか？

3. 部活動の地域移行が地域全体の課題であり、地域の文化活動を盛り上げるチャンスであることを広める必要がある。

ご清聴ありがとうございました

文化部活動の
地域移行支援ネットワーク

CASTOR ★ CULTURAL CLUB ACTIVITIES SHIFT TO THE REGION